

近代的な果樹園経営の基本的指標の考え方

平成16年9月28日
農林水産省生産局

1 現行の果樹農業振興基本方針における「効率的かつ安定的な果樹園経営の指標」

○ 果樹農業の持続的な発展を図るためには、効率的かつ安定的な農業経営を育成し、これらの農業経営が果樹生産の相当部分を担う農業構造を確立することにより、生産性の高い果樹農業を展開することが必要であることから、育成すべき経営体の具体的な姿として、代表的な経営類型ごとに指標を提示。

現行の「効率的かつ安定的な果樹園経営の指標」(22年目標)

経営指標策定に係る前提条件

○ 経営形態と経営規模

- 家族経営(主たる従事者1人+補助的従事者1人)で2~4ha程度
- 不足する労働力は雇用(他産業並みの賃金)で確保

○ 技術・装備水準

現時点で一定程度の普及が見込め、10年後には一般化する見通しのある技術水準による。

- わい性、着色系品種等の導入
- 訪花昆虫や受粉機、摘果剤、肥効調節型肥料の利用
- 農薬の散布回数の削減のためのフェロモン剤の利用
- 機械導入に必要な基盤整備が完了していることを前提として、スピードスプレーヤー等の大型機械(共同利用)の導入等

○ 労働時間

- 主たる従事者 原則 1,800時間/年(2,000時間を上限)
- 10時間/日以内

○ 所得

- 主たる従事者1人当たりの生涯所得は、地域ごとに他産業と遜色のない水準を確保(具体的には主要農業地域の都道府県別の他産業の生涯所得を踏まえ、2.2~2.8億円)。
- また、年間所得は、最も多い年で550~750万円程度(20歳で就農し65歳で経営委譲、他産業従事者とほぼ同様の所得推移)補助従事者分を加算して750~900万円

技術体系	かんきつ			りんご		ぶどう		なし		果樹複合		観光果樹園
	関東以西	東北・東山	南東北以西	南東北以西	南東北以西	南東北以西	南東北以西	南東北以西	南東北以西	南東北以西	南東北以西	南東北以西
経営規模	ha	4.0	3.0	4.0	3.0	2.0	3.0	2.0	2.4	2.4	2.4	2.4
作付面積	ha	みかん	みかん	みかん	ふじ	1.5	巨峰	1.4	露地	1.4	巨峰	1.0
	ha	早生 1.0	早生 1.0	早生 1.0	つがる 1.5	無加温 0.3	豊水 1.5	もも 1.4	巨峰 1.4	巨峰 1.4	巨峰 1.0	巨峰 1.0
	ha	普通 3.0	普通 1.0	普通 1.0	伊予柑 1.0	伊予柑 2.0	加温 0.3	白鳳 0.6	白鳳 0.6	白鳳 0.6	白鳳 0.6	白鳳 0.6
単収	kg	みかん 3,200	みかん 3,200	みかん 3,000	りんご 3,600	ぶどう 1,200	なし 2,500	ぶどう 1,200	デラウェア 1,500	デラウェア 1,500	デラウェア 1,500	デラウェア 1,500
	kg	隔年交互5,900	隔年交互2,600	隔年交互2,600					巨峰 1,200	巨峰 1,200	巨峰 1,200	巨峰 1,200
	kg	普通みかん							もも 2,400	もも 2,400	もも 2,400	もも 2,400
10a当たり労働時間	千円	みかん 128	みかん 128	みかん 110	ふじ 138	巨峰 187	赤水 166	ぶどう 187	デラウェア 266	デラウェア 266	デラウェア 266	デラウェア 266
	千円	隔年交互での収穫間 147	隔年交互での収穫間 113	隔年交互での収穫間 95	つがる 138	無加温 286	豊水 166	もも 144	巨峰 306	巨峰 306	巨峰 306	巨峰 306
	千円	休園 40	休園 40	休園 40	加温 310	加温 310	加温 310	加温 310	加温 310	加温 310	加温 310	加温 310
10a当たり費用合計	千円	みかん 322	みかん 356	みかん 334	ふじ 511	巨峰 686	赤水 580	ぶどう 655	デラウェア 901	デラウェア 901	デラウェア 901	デラウェア 901
	千円	隔年交互での収穫間 318	隔年交互での収穫間 339	隔年交互での収穫間 317	つがる 511	無加温 1,034	豊水 580	もも 647	巨峰 988	巨峰 988	巨峰 988	巨峰 988
	千円	休園 275	休園 275	休園 275	加温 1,383	加温 1,383	加温 1,383	加温 1,383	加温 1,383	加温 1,383	加温 1,383	加温 1,383
労働時間	1人当たり労働時間	主たる従事者 1,900×1人	主たる従事者 1,800×1人	主たる従事者 1,900×1人	主たる従事者 1,900×1人	主たる従事者 1,900×1人	主たる従事者 2,000×1人	主たる従事者 1,900×1人	主たる従事者 2,000×1人	主たる従事者 2,000×1人	主たる従事者 2,000×1人	主たる従事者 2,000×1人
	補助的従事者	1,000×1人	1,200×1人	1,100×1人	1,200×1人	1,200×1人	1,200×1人	1,100×1人	1,200×1人	1,200×1人	1,200×1人	1,200×1人
	雇用労働時間	1,300	500	1,000	900	1,100	1,400	400	2,900	2,900	2,900	2,900
(参考試算値)	総労働時間	4,200	3,500	4,000	4,000	4,200	4,600	3,300	6,100	6,100	6,100	6,100
	粗収入 万円	1,850	1,450	1,900	2,100	2,100	2,150	1,700	2,600	2,600	2,600	2,600
	経営費 万円	750	600	800	950	1,100	1,150	750	1,550	1,550	1,550	1,550
所得	所得 万円	1,100	900	1,100	1,150	1,000	1,050	950	1,050	1,050	1,050	1,050
	主たる従事者1人当たり所得 万円	950	700	900	950	800	800	750	850	850	850	850
	所得 万円											

- (注) 1. 技術水準については、現時点で一定程度の普及が見込め、10年後には一般化する見通しのあるものとし、また、農業の自然循環機能の維持・増進に資するものを極力見込んでいる。
2. 10a当たりの単収については、成園化率を考慮し、経営面積で平均したものである。
3. 10a当たり労働時間は、成園における労働時間であり、観光果樹園については、直売や顧客管理等に係る時間を加算したものである。
4. 総労働時間は、四捨五入の関係で主たる従事者、補助的従事者及び雇用労働時間の合計と一致しないところがある。
5. 参考試算値は、労賃、果実価格については近年の水準を前提とし、また、農業生産資材については今後の低コスト化の取組効果を見込んで試算したものであり、粗収入は四捨五入の関係で経営費及び所得の合計と一致しないところがある。

2 「効率的かつ安定的な果樹園経営の指標」における経営類型の見直し

経営類型の見直しについて

1 基本的な考え方

果樹農業振興基本方針で示す「効率的かつ安定的な果樹園経営の指標」における労働時間、所得等の目標値及び経営収支試算の前提条件等については、技術水準の見直しや他産業従事者の所得水準の変化等を踏まえ、見直すこととしてはどうか。

2 経営類型の選定等

果樹園経営の指標を示す経営類型については、主要品目における家族経営形態を示した現行の経営類型を踏まえ、次のような事項を考慮しつつ検討してはどうか。

- 消費者ニーズに対応した品目、品種の選定
- 収穫等の作業時期の異なる品種、品目、作型の導入、組合せ等による労働時間の平準化
- 観光農園等多角的経営による労働力分散と収益性の確保
- その他必要な事項を考慮し、対応してはどうか。

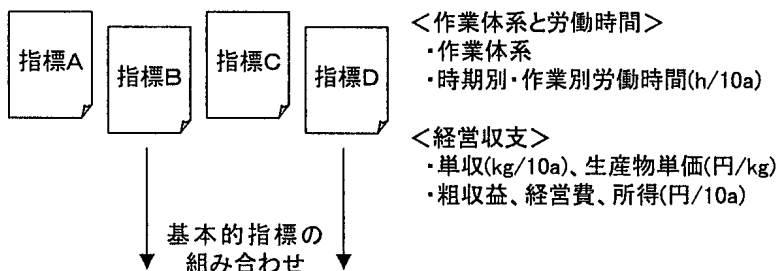
果樹の種類	地域	現行指標			見直しのポイント
		技術体系	経営規模 (ha)	作付面積 (ha)	
かんきつ	関東以西	(中傾斜地) ・早生種と普通種の組合せ ・園地別隔年交互結実技術 ・風筒式防除機	4.0	うんしゅうみかん 早生 1.0 普通 3.0	(例) <u>経営類型</u> ・複合化 (落葉果樹の品目構成) ・品種・品目構成 (早生うんしゅう、中晩柑品目、早生から晩生までの品種組合せ)
		(中傾斜地) ・早晩生品目の組合せ ・多目的作業機の活用	3.0	うんしゅうみかん 早生 1.0 普通 1.0 いよかん 1.0	
		(緩傾斜地) ・早晩生品目の組合せ ・スピードスプレーヤー	4.0	うんしゅうみかん 早生 1.0 普通 1.0 いよかん 2.0	
りんご	東北・東山	(平坦地) ・早晩生、わい化及び優良着色系品種の組合せ ・無人スピードスプレーヤー	3.0	ふじ 1.5 つがる 1.5	
ぶどう	南東北以西	(緩傾斜地) ・施設栽培の組合せ ・無人スピードスプレーヤー	2.0	巨峰 1.4 露地 0.3 無加温 0.3 加温 0.3	
なし	南東北以西	(平坦地) ・晩生品種の組合せ ・無人スピードスプレーヤー ・人工受粉機	3.0	幸水 1.5 豊水 1.5	
果樹複合 (ぶどう、もも)	南東北以西	(緩傾斜地) ・ぶどうとももの組合せ ・フェロモン剤 ・無人スピードスプレーヤー	2.0	ぶどう 1.4 巨峰 1.4 もも 0.6 白鳳 0.6	
観光果樹園 (ぶどう)	南東北以西	(緩傾斜地) ・観光農業(ぶどう) ・早晩生品種の組合せ ・無人スピードスプレーヤー	2.4	デラウェア 1.0 巨峰 1.0 ピオーネ 0.2 甲斐路 0.2	

(参考) 現行の「効率的かつ安定的な果樹園経営の指標」の策定過程

- 主要13品目について、園地条件、導入機械体系等を考慮し、10アール当たりの生産量及び労働時間並びに機械の適正利用規模を示した「近代的な果樹園経営の基本的指標」を策定するとともに、10アール当たりの経営収支を試算。
- これら指標の組合せにより、労働時間及び所得等の目標が達成されるような経営規模を設定し、「効率的かつ安定的な果樹園経営の指標」を策定。

現行指標の策定過程

近代的な果樹園経営の基本的指標



(経営 類 型)

経営規模の設定

労働時間試算

- ・主たる従事者の労働時間(h/年)
- ・不足分は雇用

所得試算

- ・目標所得(円/年)

効率的かつ安定的な果樹園経営の指標

現行の「近代的な果樹園経営の基本的指標」

果樹の種類		10アール当たり 生産量	10アール当たり 労働時間	機械の適正 利用規模	摘 要
区 分		キログラム	時間	ヘクタール	
かんきつ類の果樹	うんしゅうみかん	3,400	93	5	隔年交互結実栽培、風筒式防除機
		6,000	469	5	加温施設栽培
		3,700	128	5	多目的作業機又は風筒式防除機
		3,500	110	10	中型ステートスプレー
	なつみかん	4,000	139	15	多目的スプリンクラー(傾斜地)
		5,000	126	5	多目的作業機又は風筒式防除機
	はっさく	5,000	110	10	中型ステートスプレー
		4,000	116	5	多目的作業機又は風筒式防除機
	いよかん	4,000	101	10	中型ステートスプレー
		3,000	113	5	多目的作業機又は風筒式防除機
	りんご	3,000	95	10	中型ステートスプレー
		3,600	158	10	普通栽培
ぶどう	小粒系	4,000	138	10	わい化栽培
		1,800	180	10	露地栽培
		1,800	280	10	無加温施設栽培
	大粒系	1,800	314	10	加温施設栽培
		1,500	187	10	露地栽培
		1,500	286	10	無加温施設栽培
	青なし	1,500	310	10	加温施設栽培
		4,300	263	10	
		3,000	166	10	
	赤なし	3,200	151	10	
		3,000	144	10	
	西洋なし	3,000	144	10	
なし	もも	3,000	144	10	
	おうとう	900	221	10	雨よけ施設栽培
	びわ	1,300	257	10	
	かき	2,500	122	10	
	くり	350	49	10	
	うめ	1,800	115	10	
	すもも	3,000	164	10	
	キウイフルーツ	3,000	164	10	
	パインアップル	6,500	33	5	露地栽培
		6,800	74	5	無加温施設栽培

(注) 1. りんごはふじ、ぶどうのうち小粒系はデラウェア(ジベレリン処理)、大粒系は巨峰、なしのうち青なしはおさゴールド、赤なしは幸水、ももは白鳳、おうとうは佐藤錦、かきは富有によるものとする。

2. 10アール当たり生産量及び労働時間は、成園に係るものである。

3. 機械の適正利用規模については、「高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針」(平成10年7月29日農林水産省告示第1100号)に準ずるものとする。